CHINA TOURISM

中國旅游

中国

世界遺産

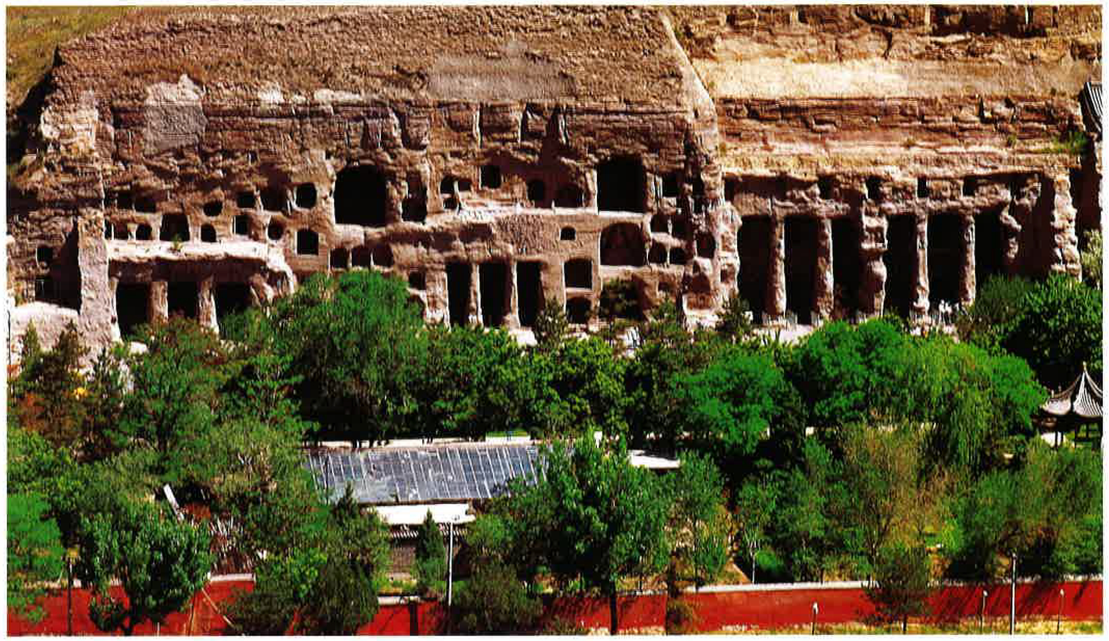
雲岡石窟



中华人民共和国国家旅游局
CHINA NATIONAL TOURISM ADMINISTRATION



次へ →



雲岡石窟　世界文化遺産

雲岡石窟

雲岡石窟は、山西省大同市西 1km の武周山南麓に所在し、東西に走る山の斜面に掘削されている。掘削が北魏の興安二年(西暦453年)に始まり、北魏が都を洛陽に遷す前にはほとんど終了したが、造像は長く正光年間(西暦520～525年)にまで続いた。全体は東、中、西の 3 部分に分かれており、蜂の巣のように彫られた大小さまざまな仏龕は、密あり疏ありて、きちんと雲岡の山腹に並べられている。

東部石窟は、塔を主としているものが多いことから、塔洞と称されている。中部石窟の 1 つ 1 つは前後 2 室にわかれ、主たる仏が真ん中に安置されており、洞壁と天井は浮き彫りされている。西部石窟は中・小のものと小龕を増刻したものが多い。



中部窟群

掘削年代がやや遅れ、ほとんどは北魏が都を洛陽に遷した後の作品である。石窟全体は壮大で気迫があり、彫刻が細かく、テーマも目立っている。

彫刻された各種宗教人物は、様ざまな格好のものがある。延々 1000m に及んだ彫像群のうち、大きいもので 10 数 m のものもあれば、小さいもので数 cm しかないものもある。これもどれも生き生きとしていて真に迫っている。真ん中に端座しているもの、太鼓や鐘を叩いたりしているもの、笛を吹いたり踊りを踊ったりするもの、琵琶を懐にして遊ぶ人に向かっているものと形態は様ざまである。これらの仏像や飛天、供養人の彫像の顔や体、衣服の文様からは、古代勤労人民の智恵と暮らしの辛さが窺われる。そこにはまた古代ペルシアの彫刻特徴が明らかに残っている。

雲岡石窟は中国の 3 大石窟の中においても、雄大な彫像と豊かな内容とで名が広く知れ渡り、53 の洞窟、5 万 1000 余尊の彫像を現存している中国の芸術宝庫のもう 1 粒の輝かしい真珠である。2001 年 12 月、雲岡石窟は『 世界文化遺産リスト 』に収められている。

東部窟群(東 1 ～東 4 窟)

第 1、第 2 窟は雲岡石窟の最東端に所在しており、両窟は規制も内容も似通っていることから、一般は「双窟」と称されている。両窟とも平面四角形のもので、中央は四角形の塔柱が彫られた洞窟である。平面は不等辺四角形を呈しており、前半は狭く後半は広く、前は高く後は低く、塔体の四面にも仏像が彫刻されている。第 1 窟の塔像は、塔柱の四面に刻された四方仏で、このうち、南面の下層はお釈迦さまと多宝仏で、上層部はお釈迦さまになっている。石窟後壁の主たる仏像は彌勒菩薩である。洞窟の壁面にはかなり豊富な雕刻が施されている。第 2 窟の前には、1 年ちゅう絶え間なく湧き出る泉がある。水が清冽で甘いことから「石窟寒泉」と称されおり、水は豊富な鉱物質を含み、飲み水の中でも高級品に属している。

第 3 窟は東部窟群区西端に所在し、雲岡でも最大な洞窟である。窟の形態は奇特で、「凹」字形の平面を呈している。これは雲岡石窟の中では唯一のものであるだけでなく、中国の石窟の中でも稀に見なかったものである。第 3 窟には特に珍しいものが 1 つある。それはつまり、かなり大きい洞窟の中には 3 尊の仏像しか彫っておらず、他の洞窟のように仏像を幾重にも連なって彫刻したことがないことである。

第 4 窟は小さな洞窟で、平面は矩形を呈しており、西側にはもう 1 つの脇洞が掘られてある。真ん中には長方形の塔柱がある。柱体の南北両側はそれぞれ 6 尊と 3 尊の仏の立像が彫られている。四壁は千仏龕像と仏伝浮き彫りになっており、酷く壊されているが、さいわいには東壁の彌勒像がかなり完全に保たれている。南壁窟門上方の「正光」題志は、雲岡でも最も遅かった題志である。

中部窟群(第 5 ～第 8 窟)

第 5 窟と第 6 窟は、一体につないだ 1 組の双窟で、雲岡石窟見学で見られる最も素晴らしく、石窟全体を代表するものである。

第 5 窟は楕円形を呈した草廬式のもので、前後両室に分かれている。前室経由で後室に入ると、先ず窟の高さに驚く感じである。後室真正面壁の中央は、跏趺を結んだ仏の大きな彫像が安置されている。台座から頂上までの高さは 17.7m もある。雲岡石雕像群の中でも最大の仏像である。

第 6 窟は雲岡石窟における「第一偉窟」と称された石窟で、規模はかなり大きい。高さは 20m で、中央に彫られた大塔柱の上には、大小さまざまな仏像 3000 余尊が彫られている。東西両壁に刻された著名な「仏伝図」は、お釈迦様が生まれてから仏になるまでの物語を生き生きと描いている。全体は華麗立派で、彫刻を施さなかったスペースは 1 つもない。

第 7 窟の主たる三世仏彫像は、かなり風食されている。南壁のアーチ形門の上方に刻された、合掌して土下座した 6 人の供養天人彫像は、建築家・梁思成先生から「雲岡六美人」として褒め称えられ、雲岡石窟でも最も早く現れた供養人イメージである。



5 窟前室上層東側の仏像(局部)



第 9 窟頂部の彩色絵が施された仏像

第8窟門東西両側の彫像は、雲岡石雕の中でも稀に見た芸術品である。特にこのうちの神鳥に乗って、三頭六臂をもつ鳩摩羅天造像(つまり鳩摩羅什、後秦時代の高僧)は、国内外の学者と専門家から、東西芸術を巧みに結びつけるすぐれた彫像群と高く評価され、古代ギリシャの彫刻に匹敵できると絶賛されている。

五華洞(第 9 ～第 13 窟)

第 9 窟から第 13 窟までは、清代晩期には彩色絵が施されたため、5 洞窟とも華麗を極め、人々から「五華洞」と称されている。「五華洞」は 2 組に分かれており、それぞれ第 9、第 10、第 11、第 12 と第 13 窟に当たっている。第 9 窟前殿明窗東西壁の文殊坐蓮像と普賢騎像は、いずれも雲岡で稀に見た彫刻の高級品である。前殿西壁中央部の仏龕頂上に端坐し、長さ 2cm しかない仏像は、雲岡石窟でも最小の仏像である。第 12 窟は雲岡石窟の音楽窟と呼ばれる窟で、仏籟洞とも称され、お釈迦さまが道を得たことを祝賀する場面を十分に表現している。主に上下 2 層に分かれた彫像は、上層はお釈迦様が生まれる前、兜率天宮で護明菩薩として修行し、出生に備える経歴を描いており、下

中心塔柱




南龕中心塔柱立仏（その 1）


南龕中心塔柱立仏（その 2）


南龕中心塔柱立仏（その 3）


南龕中心塔柱立仏（その 4）

層はお釈迦さまが生まれた後、悟りの果を得た経歴を描いている。全体の配置は荘厳静粛の感じを見る人に与えている。

第 13 窟中部 2 番の大像窟は、雲岡石窟では「交脚椅坐像」を主尊とする 2 番の洞窟である。円形の四角がやや高く盛り上がった四角形を呈している。像は高さが 13m で、仏の両脚は地面に垂れ、両膝は自然に曲がり、左手は左膝の上に乗せ、右手の掌を上に向き、右手肘と右膝間には 1 尊の四臂力士が彫られている。造形は奇特で美しく人目ををを惹いている。胸前に露出した石刻蛇形飾物は、肱臂につけられた壁釧とはバラスよく呼応している。

万仏洞（第 15 窟）

「千仏洞」とも称されている。面積が大きくなく、正方形を呈しており、縦も横も約 6m で、高さは約 9.5m。四壁には仏像が満遍なく彫られており、いずれも同一格式の像龕である。北壁の真ん中には大仏龕があるが、供養しているのは主たる仏ではない。洞内の彫像は整然と並べられており、ほとんどは同一造形のものである。

曇曜五窟（第 16 ～第 20 窟）

西部石窟群に当たるものである。雲岡石窟の中部窟群から、ある 1 区間の自然断層地帯を過ぎてから到着する。第 16 窟のお釈迦さまの立像は、高さが 13.5m で、「肉髻波状の髪の毛」というヘアスタイルは、雲岡でなければ見られないものである。顔面部はやや長いが、威厳そのもの。厚い絨織のマントルを身につけ、胸前には帯が結われ、ゆったりした裙は胸まで垂れ、雄々しく蓮花座の上に立っている。注意すべきは、この仏像の服飾は今日の朝鮮民族の女性服ととても似ていることである。右手の掌は上に向き、左手はやや下の方に垂れ、親指と中指とはものを捻るような形を成している。

第 17 窟は楕円形のもので、床は他の四窟より約 1m 深く下のほうに掘っている。主たる仏像は雲岡でも最大の交脚坐像に属するもので、逞しくて立派なようには「俺を除けばまた誰があろうか」との気品がある。花冠を頭上に戴き、胸前には獣紋の飾物があり、臂に珠釧をつけ、腿は箕踞状をつくっている。右手の掌は上に向き、左手は胸に曲がっている。人々はこれを「交脚彌勒菩薩」と称している。




第 20 窟仏像


菩薩弟子造像

第 18 窟も楕円形のもので、主たる仏の立像は高さ 15.5m で、造型が奇特で立派である。特にその「千仏袈裟」という衣装は、稀に見たもので、各学派の注目を集めている。胸を張って頭を挙げて立っていて、寰宇を無視する姿ではあるが、右手が下の方に垂れ、左手が胸を撫でるという格好から見ると、また、謙恭で物を考えているような姿も思わせる。傲慢と謙遜という矛盾な態度を一体に集めた姿、及び「千仏袈裟」の上に数え切れないほど多くの小さな仏を施したという造形は、主たる仏へのへつらうか畏怖か、多くの研究者の間に趣味を引き起こしている。

第 19 窟は特色がある洞窟である。それはつまり床の平面は楕円形のもので、洞の両側にはまた 2 つの小さな脇洞があり、床は主たる洞より 3m 高く、窟内には高さ 8m の仏の坐像が彫られていることである。主たる洞窟の坐像は高さ 16.8m で、やさしい顔つきで、曇曜五窟の中でも最大の 1 つで、雲岡石窟に置いては 2 番目に大きい。

第 20 窟は雲岡石窟の外交官や、代表作と称えられた青空大仏である。1000 年余り前の遼代、洞窟の倒壊がきっかけで、青空仏像になったのである。高さ 13.7m のこの仏の坐像は華麗宏壮で、仏は跏趺を結んで端座し、手は「定印」状をなし、つまり禅思して内心を安定させる格好をしている。この青空大仏像は、仏法を唱え雲岡で石窟の掘削を主張した文成皇帝のイメージであるといわれている。

西部小窟群（第 21 ～第 45 窟）

雲岡石窟西部の第 21 窟から第 45 窟までは、「小窟群」と通称されており、規模が小さく、内容も簡単で、北魏が都を洛陽に遷した後の作品である。雲岡石窟の晩期の作品は主に第 35、第 37、第 38 と第 39 窟を代表とし、「三壁三龕式」の洞窟が多い。造像は胴体がまっすぐで、首が長く、肩が傾けていて、裙には平行に走るしわが多い。

造像芸術

雲岡石窟の内壁、外壁、仏光、藻井(天井)などには、いずれも数多くの「飛天」が刻されている。これらの飛天は生き生きとしていて、仏教信者が憧れる極楽世界を見る人に思わせている。石窟群中には、様ざまな形態で、真に迫る各種人物、例えば如来、菩薩、弟子と護法諸天などがある。いずれも高い技法を用いて、人間が持つ天性と表情を具えさせた活気にみなぎったものである。古朴で様ざまな規格の木造建築の模造品もあれば、テーマが目立ち、技法が熟達する仏伝浮き彫りや、構図が複雑で豊かな装飾が施されたものもある。中国古代の楽器、例えば箜篌や排簫、篳篥、琵琶なども多い。

彫刻技法の面では、雲岡石窟は中国の秦・漢時代の彫刻芸術のすぐれた伝統を受け継ぎながらも、犍陀羅芸術の有益な部分も取り入れてそれを彫刻に溶け込ませて、中国の彫刻史上に大切な 1 ページを書き残した。雲岡石窟は古代中国の歴史、雕刻、建築、音楽と宗教、信仰などを研究するための重要なイメージ資料であるだけでなく、古代東西方文化交流と人民間の友好往來を証明する大切な実物資料でもある。

観光イベント

大同雲岡観光祭

時間：毎年 8 月

場所：大同市

内容：雲岡石窟、九龍壁、古戦場、火山群などの見学、文芸公演の観賞、石炭採掘の見学、風味料理の賞味など。


前室北壁



壁画



古典服式ショウ

風味料理

山西料理は「山西菜」と称されており、牛羊肉を主とするイスラム料理を基礎に、明・清時代の皇室から伝わってきた調理法によって作られる。ほかにまた海鮮を用いる「譚家菜」や他の省・市の料理も賞味できる。山西料理は種類が多く、旬の料理も様ざまで、主要調理法としては強火揚げ、炒め、焼き、弱火煮込み、蒸すなどがある。

伝統料理の老舗： 「大同老字号」。1864 年の創立で、伝統調理法によるダックの丸焼きが自慢。昔から「天下第一楼」として親しまれている。

山西の麺類軽食： 山西は麺類軽食の種類が多く、「世界麺類軽食のトップ」と称されている。主要麺類軽食としては主に、刀削麺、拉麺、擀面、貓耳朵、刀撥面、搓魚などがある。いずれも山西特色豊かな軽食である。

ショッピング

工芸品：

大同銅火鍋： 大同市の伝統料理道具で、質素で美しい。製作工芸は細かく、種類も多く、海棠、龍鳳八洞神仙、雄獅をはじめ 30 種余りの文様のものがある。

大同芸術陶磁器： 民族色豊かな陶磁器で、大同炭鉱陶瓷工場がそのほとんどを生産している。製品は地方特色が濃く、種類は 130 種以上を数え、子供の玩具になるものはなお更面白く、中国の民間物語、例えば「嫦娥奔月」、「天女散花」、「七寿星」などのものもある。

主要レストラン

店　名	場　所	電話(局番 352)
大同市九洲飯店	小南街 164 号	2055179
大同中北大酒店	新開南路 26 号	2031698
大同老大同飯店	振華北街三路	2103270
大同市昆侖飯店	振華南街 89 号	2029658
大同飯店	大西街 35 号	2052648
大同金大都酒家	迎賓西路 131 号	5029090

主要ショッピングセンター

店　名	場　所	電話(局番 352)
大同百貨大楼	大同市新建北路 2 号	2042703
華宇ショッピングセンター	大同市新建南路 56 号	2036323
雲岡大廈	大同市四牌楼 1 号	2056093
市華林商廈	大同市小南街路西	2044876
華豊百貨大楼	大同市大西街 236 楼	2063274

特産品：

大同黄花(エゾキスゲ): 大同県に産する名高い特産物。つぼみが黄色いので「金針菜」と呼ばれる。つぼみを摘み取り、干して料理の材料としたものはキンシンサイと呼ばれ、煮物・炒め物・スープなどに広く利用される。

恒山老白乾酒： 渾源県に産する山西省の銘酒。かつては国際金賞に入賞したことがある。透明で芳しさが高く、飲んだ後の味わいは絶たない。

黄芪： 漢方強壮生薬の 1 種で、長期に渡って飲めば、気血機能を増進することができる。蒸して食べる、薬酒にして飲む、スープにするなど様ざまな食用の仕方がある。渾源県は黄芪の郷であり、ここで産する黄芪は質が高く値段は低い。



麺類軽食



海鮮ラーメン



山西名物のお酢の専門店



山西省大同市の市街景色

交通

鉄道： 大同から北京、太原、西安、銀川、石家荘、包頭、瀋陽までは直通列車がある。

ローカルバス： 大同の長距離バス・ターミナルからは雲岡石窟までの直通観光バスがある。

主要ショッピング・センター

大西街は大同市でも歴史が古い繁華街で、商店は街を挟むように軒を並べて立ち並ぶ。規模が大きいものとしては中興商場、東方大廈、華豊商場、二経大楼、清遠大廈などが挙げられる。

四牌楼は大同市のもう1ヵ所の繁華街で、ここの有名なショッピング・センターとしては銀星金店、雲岡大廈、金泰珠宝行などがある。

主要レクリエーション・センター

店　名	場　所	電　話
大同三江康楽宮	大同市浜西路	352-2090111
英特クラブ	大同市新建西路 5 号	352-2033698
新光大滿貫ボーリング館	大同市南関南街 15 号	352-2051666
御花園ボーリング館	太原市迎沢大街 186 号	351-2026688
雲水榭水上楽園	太原市平陽路 341 号	351-7340091
太原球王ボーリング娯楽有限公司	太原市迎沢大街工人文化宮正門	351-4061218

一部のホテル

店　名	クラス	場　所	電話(局番 352)
大同京原迎賓館	★★★★	大同市擁軍南路甲 3 号	2880988
大同唐都大酒店	★★★	大同市新開南路迎沢街西	2039940
大同雲岡賓館	★★★	大同市迎賓東路 21 号	5021601
大同賓館	★★★	大同市迎賓西路 37 号	2032476
大同紅旗大飯店	★★	大同市站前街 11 号	2816822
大同華威大酒店	★★	大同市大東街 1 号楼	2056678

主要旅行社

社　名	場　所	電　話
山西中国青年旅行社	太原市青年路 34 号	351-4164181
山西中国国際旅行社	太原市平陽路 38 号	351-8211109
山西中国旅行社	太原市新建南路 38 号	351-4049274
山西太原市中国旅行社	太原市府西街 135 号	351-3533258
大同中国国際旅行社有限公司	大同市迎賓東路 21 号	352-5102364
大同中国青年旅行社	大同市教場街 108 号	352-2051574
大同万景国際旅行社有限公司	大同市教場街福興園	352-2401801

全国統一の特種サービス電話

中国国際電話頭番号:0086	警察通報先:110	交通事故通報先:122
市内電話番号案内:114	国内長距離電話予約:113	国際電話予約:115
火事通報先:119	救急センター:120	天気予報:12121

中国地図における雲岡石窟



中国国家観光局（東京）

東京都港区虎ノ門 2-5-2 エアチャイナビル 8F
郵便番号：105-0001
電話：03-3591-8686
ファックス：03-3591-6886

中国国家観光局大阪事務所

大阪市浪速区湊町 1-4-1OCAT ビル 4F
郵便番号：556-0017
電話：06-6635-3280
ファックス：06-6635-3281

中華人民共和国国家観光局

アドレス：北京市建国門内大街甲 9 号
電話：0086-10-65201114
ファックス：0086-10-65122096
ホームページ：http://www.cnta.gov.cn

CHINA TOURISM

中國旅游

雲岡石窟



中华人民共和国国家旅游局
CHINA NATIONAL TOURISM ADMINISTRATION



ご覧いただきありがとうございます！